



第111回

私のスケッチブック

「アミアンのノートルダム大聖堂」

アミアン / オー=ド=フランス (フランス)



アミアンはパリから北西にカレー方面に向かって約120kmに位置し、ピカル地方の主要都市で、高速道路で約2時間程度の距離でした。土曜日の朝食をパリの凱旋門近くで食べて、週末のドライブ感覚です。この町の大聖堂はフランスで最も背が高く、室内空間が一番広いと云われています。一説によると1288年の創建と云われますが、過去二度の世界大戦で主戦場となって、ほぼ全ての資料が失われます。

ゴシック様式の美しい装飾や彫刻が数多く残され、1981年にユネスコ世界遺産に登録されます。この大聖堂に所蔵される聖遺物には、何度目かの十字軍の遠征で当時のコンスタンティノープルから持ち帰ったと伝えられるバプティスマのヨハネの頭部など超一級品が含まれています。

アミアンの町は、ソンム川で二分されます。多くの運河が巡らされ、新しく整備されたサン・ルー地区の運河沿いにはカフェやレストランが立ち並び、多くの若者達で賑わっていました。

ヨーロッパには何々のヴェネチアと呼ばれる運河が有りますが、アミアンの運河は「北の小さなヴェネチア」と呼ばれます。この町には、他にも世界遺産が有って、ベルギーからフランス北部に掛けて発展した鐘楼群にも登録され、そしてフランスのサンチャゴ・デ・コンポステラの巡礼路としても登録される珍しい地区です。

大聖堂脇の洒落たレストランでランチをとって、一般道でパリへと戻る途中で道路標識を見ていると…ユーロスターのリール駅の表示です。

以前、パリシャルル・ド・ゴール空港からTGVでブリュッセルに向かうと、この駅でユーロスターからの乗り継ぎ客を待つ為に20分近く停車していた記憶。もうベルギーとの国境が近いんだあ！

暫く、ドライブを楽しんでいると…何となく見覚えのある風景に出遭います。ゴッホ終焉の村・オーヴェル・シュル・オワーズの街中を通過中。Caféくらい遣ろうぜ！

延原 慎吾



1946年、岡山県生まれ。現在、東京都内在住。物流会社を経営するかたわら欧州物流コンサルタントとして渡欧の際、歴史的建造物及び風景の美しさに魅せられて水彩画を始める。
「第70回 全国カレンダー展」に11度目の入選を果たし、その実力を発揮する。
<http://www.urban.ne.jp/home/nobu36>

水彩画 延原

Q 検索